

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	<p>1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。</p> <p>3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				令和5年度評価(月 日現在)			
号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等がいる。</p> <p>【課題】 個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を、全教職員の共通理解の下で行う必要がある。 タブレット端末を活用し、生徒の学習意欲を伸ばし、学力向上につなげることが大事である。</p>	○学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の充実。新学習指導要領を見据えた取組み。	①生徒の学習習慣の確立や、基礎学力の向上を目指した指導法を引き続き検討し実践する。また、日本語支援員、学習サポーターを有効に活用する。 ②主体的、対話的な深い学びを引き出す授業の取組や、観点別評価が、2年目となるので、評価方法について引き続き検討する。	①成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか。 ②生徒アンケートで、授業改善に積極的に取り組んでいるとの回答割合が前年度より10%以上増加したか。			
		○個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進 ○ICT機器の効果的な活用	①ソーシャルスキルトレーニングを行い、生徒が自立出来るように効果的な支援を行う。 ②スクールカウンセラーの専門性を生かし、相談窓口の充実を図るとともに、教員の研修を行い、教職員のスキルアップを図る。 ①ICT機器を効果的に活用し、学習習慣を確立をはかる。	①各事業を着実にを行うことで、個に応じた課題を解決できたか。退学者が減ったか。 ②生徒アンケートで、相談・支援等の体制が整っていると回答した割合が多かったか。 ①生徒一人一人が機器を活用し授業に取り組み、学力向上につながったか			
2	<p>【現状】 生徒の問題行動は少なく落ち着いた。また、計画に基づいた進路指導も令和4年度卒業生全員が進路実現を達成することができ、成果が出ている。</p> <p>【課題】 毎年、多様な生徒が入学しているため、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。 基本的な生活習慣が守られていない生徒の心の育成が課題である。 今年度も卒業時の進路未決定者ゼロを目指す。特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。</p>	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実	①早い段階での面談を実施し、生徒の諸問題の把握や問題行動の早期発見と未然防止を強化する。 ②生徒指導部を中心とした、交通安全指導や非行防止指導にチーム久喜定として職員全員で努める。	①生徒アンケートで、基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てることに努めていると回答した割合が前年度より10%以上増加したか。 ②軽微なものを含め生徒指導件数が少なかったか。			
		○個に応じた進路実現を目指すため、組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①進路行事を計画的に実施し、進路講演会や就労体験を効果的に行う。 ②スクールソーシャルワーカーの支援も得て手厚い進路指導を行うことで、生徒の進路指導を実現させる。	①生徒アンケートで「進路について考えるようになった」が前年度より増加したか ②卒業時に全員が進路希望を実現できたか。			
3	<p>【現状】 学校情報を様々な場面を通じて発信している。</p> <p>【課題】 定時制教育への理解と、社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。</p>	○積極的な学校情報の発信	①学校説明会、夕方の説明会、保護者向けの公開授業を実施し、定時制について理解を深めてもらう。 ②近隣中学校や地域への学校新聞の発行とホームページを適宜更新し、定時制教育への理解を広める。	①参加者の満足度、参加人数が増加したか。 ②近隣地域や各中学校へ学校新聞を発行できたか。ホームページの更新を適宜行えたか。			

学校関係者評価
実施 令和 5年 2月 2日
学校関係者からの意見・要望・評価等